

「うつさない、うつらない」新型コロナウイルス感染症対策 手指消毒を心がけた新しいキャンパスライフ —対面授業開始に向けて、身につけてほしい習慣—

武蔵大学（東京都練馬区／学長 山崎哲哉）は、2021 年度、授業ごとの履修人数が確定する 5 月中旬より原則として対面授業を実施することとしました。それに向けて、4 月 1 日～7 日、健康診断会場において、手指消毒用のアルコールスプレーを配付します。この配付は、本年 4 月に就任した池田康夫学園長（医学博士）の学生へのメッセージ「感染防止対策の基本はマスク着用と手洗い。手指消毒の習慣を身につけることが、感染拡大防止につながる。」を受けて実現したものです。

キャンパス内には、すでにアルコール消毒液の設置が随所にあります。携帯用のアルコールスプレーを持ち歩くことで、どこにいても手指消毒をする習慣を身につけることが、対面授業開始後も大いに役立つものと考えています。

■ マスク着用とこまめな消毒で、「うつさない、うつらない」を徹底

「自分が無症状感染者の 1 人かもしれない」ことを想定して、マスク着用と手指をこまめに消毒し、お互いに「うつさない、うつらない」を徹底することを注意喚起しています。

■ 対面授業開始前の習慣づけ

本学では、履修人数が確定する 5 月 12 日まではオンライン授業とし、その後は原則、対面授業を実施する予定です。今回の取り組みをきっかけに、学生一人ひとりが感染症対策への意識と自覚を持ち、消毒を習慣づけてくれることを期待します。感染予防をしながら、キャンパスで安全に学ぶための第一歩と考えています。



健康診断会場で学生に配付されたチラシ

—報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報室

TEL : 03-5984-3813 FAX : 03-5984-3727 E-mail : pubg-r@sec.musashi.ac.jp



2022 年、武蔵学園は創立 100 周年を迎えます。

■武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩 6 分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年 4 月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開校され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。武蔵大学は、経済、人文、社会の 3 学部 8 学科からなる文系総合大学。一年次から 4 年間のゼミナールが必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2012 年には、外国語や異文化を楽しみながら学ぶことのできる国際村 Musashi Communication Village（通称 MCV）を開校、キャンパス内留学の拠点とした。

2020 年 3 月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022 年 4 月、学園創立 100 周年を迎えるこの年に、新学部となる国際教養学部（仮称）の設置を構想中。

学長 山崎哲哉 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1